

第4学年1組 社会科学学習指導案

令和2年 11月5日(木)

島根大学教育学部附属義務教育学校 藤原良平

1 単元名 自分のくらしと自然災害のつながりをつかみ、自分にできることを考えよう。

「自然災害からくらしを守る」

2 単元の目標

○自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりしてまとめ、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現する活動を通して、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な備えをしていること理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることを考えようとする態度を養う。

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①過去に発生した地域の自然災害、関係諸機関の協力について、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、災害から人々を守る活動を理解している。 ②調べたことを年表や図表、文などにまとめ、地域の関係機関や人々は自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解している。	①過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力に着目して、問いを見出し、災害から人々を守る活動について考え表現している。 ②自然災害が発生した際の被害状況と災害から人々を守る活動を関連づけて、その働きを考えたり、学習したことを基に地域で起こりうる災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることを考えたり、選択・判断したりして表現している。	①地域に発生する自然災害について予想や学習計画を立てて主体的に学習問題を追究・解決しようとしている。 ②学習したことをもとに、地域の安全の確保について自分たちにできることを考え協力しようとしている。

4 単元の内容について

本単元は、平成29年度公示の学習指導要領において新設され、「自然災害から地域の安全を守る諸活動」について学習する内容である。島根県は過去60年間の中で台風や地震、大雨による水害、雪害など様々な被害を受けている。中でも、水害による被害が度々起こっており、今年の7月には江津市を流れる江の川の氾濫により、大規模な浸水被害が起こり300人以上の方が避難をした。また、松江市では昭和47年と平成18年に大橋川の氾濫により松江市の中心部に大規模な浸水被害が起きている。今年に入ってもたびたび比津川の氾濫によって道路の一部が冠水するなど、水害は松江市で暮らすわたしたちにとって切り離せない自然災害の一つである。

今回、学習する4年生の半数以上の児童の居住地は過去に起きた昭和47年・平成18年水害の浸水区域である。しかし、過去の水害を知らない児童がほとんどである。今後、いつ、どこで起こるかかわからない自然災害について、減災に向けた関係機関の取り組みや協力体制、防災に向けた地域の取り組みや自分たちにできる様々な備えなどについて学習することは、自分や家族のくらしを守る上で必要不可欠なものである。本単元では、学習者である児童が自分や家族のくらしと命を守るために、「危険を感じた際に実際に行動に移す(避難スイッチを押す)」ことを率先してできるように、自然災害と自分のくらしをつなげて捉えられるようにしていきたい。

そこで、本単元では自然災害を「他人ごと」でなく「わがごと」として捉えながら学習を追究していくことができることを目指す。そのために、松江市の災害に関わる様々な取り組みだけでなく、児童自身のくらしとのつながりがイメージできるよう資料の精選や単元構成を工夫する。また、児童自身が追究意欲を高めながら学習に

向かい、社会的な見方・考え方を働かせながら学習を進められるように、毎時間の問いの設定や掘り下げ、問い返しなど教師の具体的な手立てを工夫する。

単元の「つかむ場面」では、過去に起きた島根県内の自然災害について年表を使いながら比較することで、様々な自然災害が起きていることや県内で発生しやすい自然災害の特徴をつかめるようにする。次に、平成18年、昭和47年の浸水被害がわかる写真を提示しながら、松江市が「水害による被害が起きやすいまち」であることをつかめるようにし、単元全体の学習問題をつくっていく。

単元の「調べる」場面では、まず大橋川コミュニティーセンターに見学に行き、水害が起きる要因や過去の浸水範囲について調べる。また、水害の危険時や発生時の市の取り組みについて市役所の防災安全課の方に話を聞いたり、減災に向けた事前の取り組みについて国土交通省出雲河川事務所の方に話を聞いたりする場を設定する。そして、副読本「わたしたちの松江」を活用しながら、各地域での取り組みや自分たちにできることなどについて調べていく。

「まとめる」場面では、単元全体の学習問題について、これまでの学習を通して学んだ取り組みについて「行動をする人」という立場に注目しながら公助、共助、自助の視点で図にまとめる活動を行う。

「いかす」場面では、自助の取り組みに焦点を当て、災害発生が予想されるときに各家庭が「いつ」、「何をするのか」を時系列にまとめた行動計画「マイ・タイムライン」を作成する。

本時は、単元の9時間目である。前時までに作成したマイ・タイムラインについて話し合い、大雨が続くことによる自然災害の発生が予想されるとき「よりよい行動」について考える。個々のマイ・タイムラインを紹介し合う中で、安全を確保するための行動を考える際の留意点が「自分や家族の安全」、「住んでいるところ」、「災害に対する考え方」など一人一人の暮らしによって優先的に考えるものがあることや「早めの行動」、「確かな情報収集」といった誰にとっても共通して大切なことがあることに気付けるようにする。そして、自分や家族の命を守るための具体的な行動についてさらに考えを深めることができるようにしたい。

5 単元展開（全9時間）

	○主な問い、学習活動・内容 ☆見方・考え方	◇指導の手立て □資料 【 】評価
つかむ	<p>問い 島根県では過去にどのような自然災害が起きているのだろう。(1時間)</p> <p>○県内でこれまで発生した様々な自然災害の種類と被害の様子について年表と白地図にまとめる。 ☆島根県で発生した災害を時期や範囲に着目してとらえる。〈時間・空間〉</p> <p>問い 松江市ではどのような水害があったのか話し合い学習問題をつくろう。(1時間)</p> <p>○松江市の災害年表から、水害が多く起こっていることを知り、学習問題をつかむ。</p> <p>○学習問題に対する予想を基もとに、学習計画を立てる。</p> <p>☆過去に松江市で発生した水害の時期や範囲に着目してとらえる。〈時間・空間〉</p> <p>学習問題 「水害からわたしたちの暮らしを守るために誰が、どんなことをしているのだろうか」</p>	<p>◇島根県の災害年表「わたしたちの島根」</p> <p>□島根県の白地図</p> <p>【知・技①】</p> <p>◇年表と白地図を使い、発生時期や場所を関連付けて調べることで、これまでに県内で起きた自然災害の特徴に気付けるようにする。</p> <p>□「副読本 わたしたちの松江」</p> <p>◇平成18年の松江駅前の写真、昭和47年の大輪町の写真や被害の様子がわかる資料を提示し、水害による被害をつかめるようにする。</p> <p>◇「誰が」「どんなことをしているか」ということに着目しながら予想を立てるように促す。</p> <p>【主①】</p>

<p>調 べ る</p>	<p>問い水害によって自分たちの住んでいるところはどんな被害がでるのだろう。(1時間)</p> <p>○大橋川コミュニティーセンターに行き、過去の 水害被害の様子や仕組みをつかむ。</p> <p>問い水害が予想されるときや起きたときに誰がど んなことをしているのだろう。(2時間)</p> <p>○市役所防災安全課と国土交通省の方の話を聞 き、災害対策本部を中心とした会議や関係機関 のつながり、それぞれの役割をつかむ。</p> <p>☆関係機関のつながりやそれぞれの取り組みに着 目する。(相互関係)</p> <p>○自分の住んでいる地域の被害予想についてハザ ードマップをもとに調べる。</p> <p>☆浸水想定区域など位置に着目する。(空間)</p> <p>問い水害からくらしを守るために地域ではどんな ことをしているのだろう。(1時間)</p> <p>○地域の避難所(学校・公民館)の位置や取り組 み、防災倉庫について調べる。</p>	<p>□大橋川コミュニティーセンターの方の話</p> <p>◇水害被害の模型の見学や施設の方の話を聞くこ とで当時の様子が具体的にわかるようにする。</p> <p>【知・技①】</p> <p>□防災安全課の方の話</p> <p>□国土交通省の方の話 (大橋川コミュニティーセンター)</p> <p>□防災行動計画</p> <p>□ハザードマップ</p> <p>◇ハザードマップに自分の居住地を書き込むこと で自分のくらしと自然災害をより「我がごと」 として捉えることができるようにする。</p> <p>【思・判・表①】</p> <p>□防災倉庫「副読本 わたしたちの松江」</p> <p>◇ハザードマップを使い自分の居住地近くにある 避難所の場所を確認する。</p> <p>【知・技①】</p>
<p>ま と め る</p>	<p>問い自然災害からくらしを守るための取り組みに ついて「行動する人」に注目してまとめよう。 (1時間)</p> <p>○自然災害からくらしを守るための様々な取り組 みを「行動する人」に注目してまとめる。</p>	<p>◇公助、共助、自助の視点でワークシートにまと めるようにすることで、防災や減災の取り組み について立場や関係機関のつながりを具体的に 捉えることができるようにする。</p> <p>【知・技②】</p>
<p>い か す</p>	<p>問い自然災害からくらしを守るために自分たちは どんなことができるだろう。(1時間)</p> <p>○学習したことをもとに自分や家族の安全を守る ためにできることを考える。</p> <p>○これまでの学習をもとに、「自助」に注目しマ イ・タイムラインをつくる。</p> <p>問いマイ・タイムラインを比べ、自然災害が起き そうなときのよりよい行動について考えよう。 (1時間)</p> <p>○前時につくったマイ・タイムラインを紹介し合 い、よりよい行動の在り方について考える。</p> <p>☆松江市の過去の災害の様子と自分のくらしを関 連付ける。(時間 空間)</p>	<p>◇マイ・タイムライン作成のためのワークシート を使い、居住地や家族構成など自分のくらしにつ いてふり返り、具体的にマイ・タイムラインを考 えることができるようにする。</p> <p>□マイ・タイムライン (国土交通省資料を基に授業者が自作したもの)</p> <p>【主②】</p> <p>◇それぞれのマイ・タイムラインを紹介しあい 「工夫点」を比べることを通して、安全を確保 するための行動が「それぞれのくらしと関係し ていること」や「誰にとっても大切な行動があ ること」に気付けるようにする。</p> <p>【思・判・表②】</p>

6 本時の学習

(1) 本時の目標 (9/9)

作成したマイ・タイムラインについて「工夫点」を加えながら紹介しあうことを通して、安全を確保するための行動は「個々の暮らしによって違うものがあること」や「誰にとっても大切なものがあること」に気付くとともに、自然災害が予想されるときに自分に合ったよりよい行動について考えることができる。

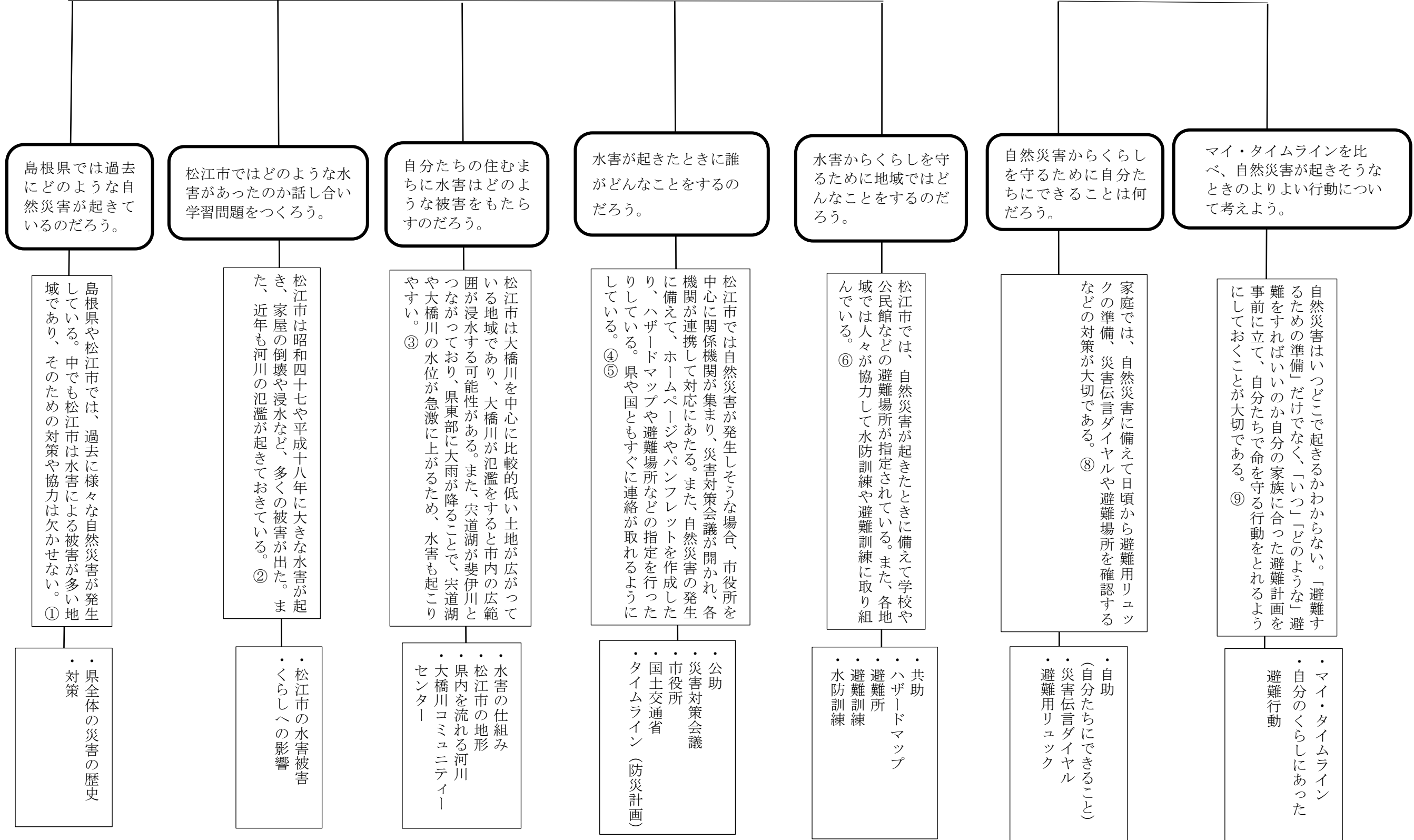
(2) 展開

主な学習活動	教師の支援と評価
<p>1. 前時までの学習をふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分で作ってみたいけれど、友だちはどんなマイ・タイムラインを作ったんだろう」 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学習した公助、共助、自助について確認する。
<p>マイ・タイムラインを比べながら、自然災害が起きそうなときの「よりよい行動」について考えよう。</p>	
<p>2. 作成したマイ・タイムラインをペアで伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「私は大雨が降っていたら住んでいる地域の雨量をすぐに調べるよ」 ・「うちは大雨警報が出たら避難用リュックの中身を確認するよ」 ・「うちはもしものときは親戚のうちに避難するよ」 <p>3. マイ・タイムラインを全体で共有し、比較する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分は家族に幼児がいるから暴風警報が出たらすぐに避難するようにしたよ。」 ・「自分の家は大雨で浸水する可能性がある場所だから、川の水位はよく調べることを意識したよ。」 ・「うちの地区は土砂災害が心配な場所だから、大雨の時は早く行動することにしたよ。」 ・「ぼくはマンションに住んでいるから、大雨の時は家にいる方が安全だと思う。でもそのかわり食料を多めに準備しておくことにしたよ。」 ・「ペットも一緒に避難したいから道具や準備を前もってしようと思っているよ。」 <p>4. 「避難行動を考える際のポイント」を踏まえながら、再度マイ・タイムラインを見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分の家も幼い弟がいるから、ちょっと早めに避難の移動をするように変えようかな。」 ・「友達の話聞いて、自分の家は川が近いから、川の水位はもうちょっと早く調べておこうかな。」 <p>5. 本時を振り返る。</p> <p>今日、マイ・タイムラインを伝え合いました。それぞれ住んでいるところや家族が違うから、マイ・タイムラインも違いました。でも、行動するときを考えている大切なポイントは共通していました。自分の暮らしに合った避難の仕方や行動について考えることができたので、また家族とも一緒に考えたいです。もし自然災害が起きそうになったらこれを見て自分が家族に声をかけたいと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作成したマイ・タイムラインをペアで紹介しあう。全体場で全員分の考えを伝える時間を確保することは難しいので、この場でペアに対して作成時に意識した「工夫点」を丁寧に説明するように促す。 ・ペアでの紹介後、全体でマイ・タイムラインの共有を行う。 ・共有場面では「工夫点」を先に発表し、それがどのようにマイ・タイムラインに生かされているかを確認できるようにする。 ・プロジェクターを使い、個々のタイムラインが確認できるようにする。 ・発表時には適宜ハザードマップを確認することで、聴く側が発表者の工夫ポイントの意図を理解できるようにする。 ・「工夫点」ごとに分類しながら板書することで個々のマイ・タイムラインの中にいくつかの「避難行動を考える際のポイント（視点や行動）」があることに気付けるようにする。 ・全体共有後、作成したマイ・タイムラインについて見直す時間を設定することで、「避難行動を考える際の留意点」を自分の暮らしとさらに関連付けながらよりよい避難行動について考えられるようにする。 ・見直したマイ・タイムラインを紹介しながら、学習前との想いの違いやよりよい行動について考えたことなどについて共有できるようにする。 <div data-bbox="826 1798 1455 2022" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価〈思考・判断・表現②〉 自分のマイ・タイムラインを紹介し、友達のマイ・タイムラインと比べ、避難行動を考える際のポイントを考えることを通して、自分にできることを考えたり、選択・判断したりして表現している。 (ワークシート 振り返り)</p> </div>

「水害からくらしを守る」知識と問いの構造図

地域の関係諸機関や人々は自然災害に対し、様々な協力をして対処してきた。また、今後想定される災害に対し、様々な備えをしている。わたしたち市民も「避難計画」や「避難に関わる物の準備」など、自分で自分のくらしを守るためにできることをしていくことが大切である。⑦

単元全体の学習問題「水害からわたしたちのくらしを守るために誰が、どんなことをしているのだろうか」



中心概念 (概念的知識)

各時の問い

社会的事象 (具体的知識)

用語・語句

●新学習指導要領より「自然災害からくらしを守る」単元の目標

【知識・技能】

- (ア) 地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること
 (イ) 聞き取り調査をしたり、地図などの資料で調べたりして、まとめること。

【思考・判断・表現】

- (ア) 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現すること

●本単元で子どもが理解すること

- ・県内で過去に自然災害が発生していること
- ・発生した際には県や市、警察署や消防署、消防団などの関係機関や地域の人々が協力して、自然災害から人々の安全を守るために対処してきたこと
- ・関係機関と地域の人々は過去の自然災害の発生状況などを踏まえ、気象情報を収集したり災害の前兆現象を察知したりして、起こりうる自然災害による被害を防いだり減らしたりするための備えをしていること。



●進めていく際、着目することの具体例

〈取り扱う災害〉

- ・地震災害 津波災害 風水害 火山災害 雪害から選択する。

〈関係機関〉

- ・県庁や市役所の働き（県庁や市役所を中心に上げる）
- ・県や市が策定した防災計画に基づく防災対策、防災情報の発信、避難態勢の確保などの働き、自衛隊など国の機関の関わり
- ・河川の改修、水防倉庫の設置、避難場所の確保、避難訓練の実施、消防団による危険箇所の見回りや点検

〈災害から人々を守る活動〉

- ・地域で起こり得る災害を想定し、自分自身の安全を守るための行動の仕方を考えたり、自分たちにできる自然災害への備えを考えたり選択・判断したりできるようにする。



●着目する具体例とのつながり ①「島根県や松江市とのつながり」と②「本校4年生とのつながり」

〈取り扱う災害〉 水害

- ・松江市は昭和47年、平成18年に大きな水害による被害を受けている。
- ・斐伊川が宍道湖、大橋川とつながっていること、松江市中心部が平地で比較的土壌が低いことから浸水被害が起きやすい。（半数以上の児童の居住地が浸水区域）
- ・近年も大雨による川の氾濫が起こっており、令和2年7月には江の川の氾濫、松江市では比津川の氾濫などが起こっている。（子どもの日記にもこの時期の内容がよく出てきており関心も高い）

〈関係機関〉

- ・災害発生時（予想時）には市役所や県庁を中心に災害対策本部を設置する。
- ・防災計画（タイムライン）を策定し、「どの機関が」「いつ」「何をするのか」をタイムラインに基づいて対応するようになっている。
- ・斐伊川タイムラインが作成されている。
- ・学習施設として「大橋川コミュニティーセンター」があり、水害被害の様子や対策に向けた取り組みについて発信している。

〈災害から人々を守る活動〉

- ・市役所からハザードマップや避難場所などが記載されている防災ガイドブックが各家庭に配布されている。避難の仕方については各家庭に任されている。
 （一般的な知識として「避難の必要性」や「避難に必要な物」について知っていることもあるが、「いつ何をするのか」、「どこに、どのように避難するのか」といった自分のくらしにあった避難行動までは理解していない）